

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

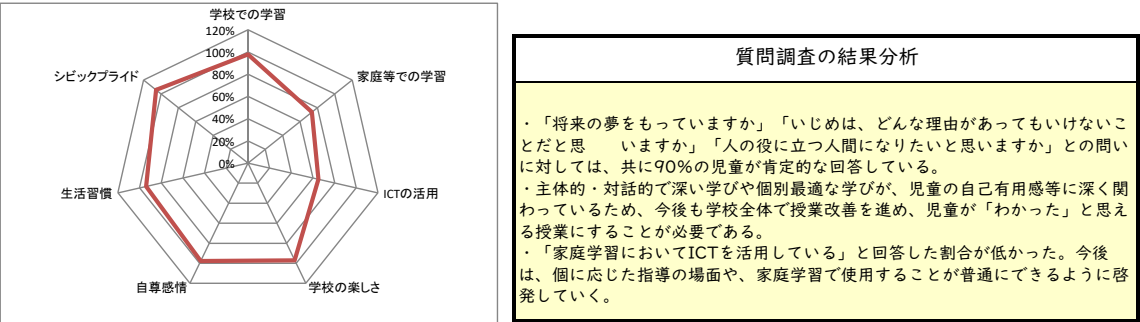
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと」「聞くこと」にの正答率が全国比と同等であった。情報の使い方に関する事項について、正答率が全国比より上回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	メモの書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する問題について、正答率が全国比より上回った。	
	努力が必要な問題	物語を読んで、心に残ったこととその理由をまとめて書くことや漢字の書き取りに努力を要する。	
算数	全体的な傾向や特徴など	折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかを見る問題では、正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面の数量関係を捉え、求める式を選択する問題について、正答率が全国比より上回った。	
	努力が必要な問題	言葉や図、数、式、グラフを適切に用いて思考の過程や判断の根拠など説明する問題に努力を要する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・各教科において、自分の課題を明らかにさせ、課題解決場面においては、自分の考えの根拠を説明する学習場面を設定し、解決していくような指導を行っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭科の学習を通して1日の自分の生活を見直すことで、課題と解決策を考えて日々の生活を送るきっかけとなった。

・家庭学習においても、調べ学習や自主学習等でICTを活用できるよう取り組ませていく。